NEWSLETTER Vol. 19

Food and Agricultural Immunology Network (FAIN)

拠点形成研究交流報告：海外研究拠点中国揚州大学動物科学院の楊 院長、趙 教授、包 教授、耿 教授と共同研究に関する打合せ会議

海外研究拠点中国揚州大学の動物科学院から楊章平 院長、趙国琦 教授、包文斌 教授、耿拓宇 教授が平成 30 年 2 月 26 日(月)から 3 月 3 日(土)まで東北大学大学院農学研究科を訪問し、共同研究題目「乳汁を用いた乳房炎早期診断技術開発と機能性素材探索」に関する研究打合せ会議を開催した。

牧野研究科長を表敬訪問し、13 年間行っている大学間交流事業で学生交流と研究者交流を今後も継続して発展させることを確認した。研究拠点形成事業の内容に関して討議し、東北大学大学院農学研究科から最大限の助成を行うこと、また中国揚州大学は更なる研究者交流を行って発展を図ることを相互に確認した。

午前中の会義では、東北大学大学院農学研究科応用動物コースから、盧 准教授「The roles of inflammatory cytokines in rumen epithelial cells（ルーメン上皮細胞における炎症性サイトカインの役割)」、喜久里 准教授「Utilization of plant extracts for poultry production（家禽生産における植物抽出物の利用)」、上本 准教授「GWAS and genomic evaluation in pig and cattle populations（豚・牛集団におけるゲノムワイド関連解析及びゲノミック評価)」の研究紹介を行い、活発な意見交換が行われた。

午後の会議出席者は、東北大学大学院農学研究科から麻生 食と農免疫国際教育研究センター長、原田 副センター長(研究担当)、北澤 副センター長(教育担当)、白川 CFAI ユニット長、盧 准教授、喜久里 准教授、上本 准教授、渡邉 助教、学生 2 名が参加した。会議では、楊 院長「The situation, protection and utilization of animal genetic resources in China」、包 教授「Regulation and molecular mechanism of TLR5 on resistance to E,coli F18 in weaned piglets」、耿 教授「Lipotoxicity, fatty acids and goose fatty liver」、趙 教授「ルーメン上皮細胞の永久化及び炎症因子に対して GPR41 は SCFA s に影響について」の研究紹介があった。その後、質疑応答を行い、今後の共同研究に向けての有意義な討論を行った。

牧野研究科長に参加して頂き、参加者全員で夕食を交えた交流会を実施し、揚州大学の詳しい研究体制と、機能性素材探索に関する可能性を討議する機会を得た。

次の日に、楊 院長、趙 教授、包 教授、耿 教授は、東北大学大学院農学研究科付属川渡農場を訪問し、陸圏生態学分野の小倉 教授、深澤 准教授が農場の案内・説明を行い、研究交流を実施した。

今回の会議成果を元にそれぞれの研究分野に対応した拠点交流を行い、今後の共同研究への進展を図ることとなった。また、今後も学生間交流の充実を図ることを再確認できた。海外研究拠点中国揚州大学から楊 院長と 3 名の教授を招聘したことにより、今後の共同研究題目「乳汁を用いた乳房炎早期診断技術開発と機能性素材探索」の推進方法に関しては大きな進捗があった。このような機会を提供していただいた JSPS 研究拠点形成事業の研究交流支援に感謝する。

CFAI センター長　機能形態学分野　麻生　久